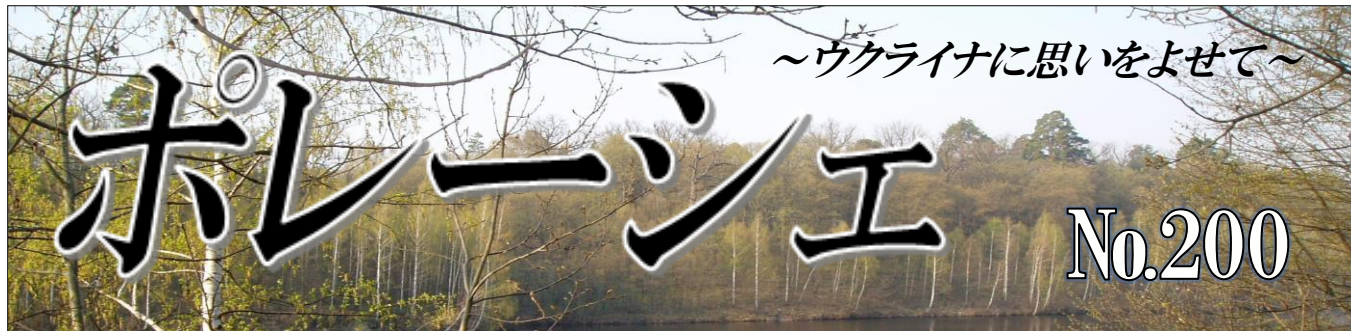


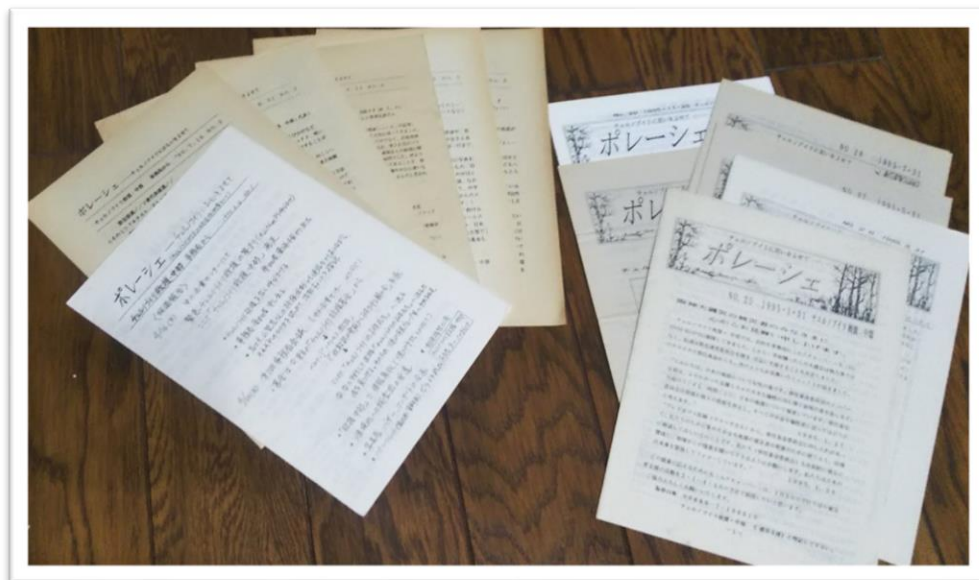
「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2024年7月15日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

## 『ポレーシェ』200号を記念して

私たちは1990年4月20日、市民団体「チェルノブイリ救援・中部」を発足させて活動を始め、6月4日に急きょ“手書き”の本紙『ポレーシェーチェルノブイリに思いを寄せて』第1号を発行(7月発行の第2号からはワープロ作成)、以来、本年7月発行の今号で200号を数えます。こ



れまでこのような振り返りをしたことはないのですが、200号記念号に少し花を添えることをお許しいただきたいと思います。

1986年4月26日のウクライナ(当時ソ連邦)・チェルノブイリ原発事故の放射能被災者の支援を目的として私たちは活動を開始しましたが、この34年間には、日本では1995年1月17日の阪神・淡路大震災をはじめとする自然災害、さらに2011年3月11日の東日本大震災・それに伴う東京電力福島第一原発の原子力災害等を経験してきました。これら大災害に対して、それぞれの緊急救援も行ってきました。福島の被災地では放射能測定を中心に、「汚染マップ」の作成を現地の方たち、全国のボランティアに呼びかけ、協力を得ながら10年間続けました。これらの活動は本紙『ポレーシェ』を通して広報しご協力を呼びかけ、できる限り現地からの活動報告を掲載してきました。

そして今ウクライナでは、2022年2月24日からチェルノブイリ原発、ザポリヅジャ原発が危機にさらされ、多くの町や村、学校や病院、教会や発電所等が破壊され、子どもたちを含めた多くの市民の命が失われ続けています。「ウクライナの緊急支援」は続いています。戦火の中で暮らす人々の生活を支えるため、『ポレーシェ』をお読みいただき、引き続きご理解とご協力をお願い致します。

(戸村京子)

～「今中講演会」に思う～

## 大切なのは真実を伝えること

チェルノブイリ救援・中部主催の今中哲二さん講演会「チェルノブイリ原発事故から38年 ウクライナの今」に参加させていただきました。大いに感銘を受けたこの講演について述べさせていただきます。

初めに30年以上にわたる、そして今も継続されている当会の救援活動に敬意を表します。

今中さんは広島県出身で、当初は「原子力の平和利用」を目指し、京大の研究所で助手として研究を進める中で疑問を感じ、以後は「原子力をやめることに役立つ研究」をされています。日本での活動の他、チェルノブイリ原発事故後はウクライナに何度も渡航され、放射能測定等の活動を続けられていて、福島原発事故後は福島でも。

チェルノブイリ原発事故では520京ベクレル(広島原爆の500倍、福島では90京ベクレル)もの放射能が放出されてウクライナ、ロシア、ベラルーシの大地を広く汚染し、数百万人の被災者と多数の死傷者を出して、地域社会を破滅させ、被害は今も継続しています(福島でも同様!)。そしてロシアのウクライナ侵攻以後、チェルノブイリ原発の汚染地で多くのロシア兵が駐屯して被曝させられたとのこと。ザポリヅジャ原発(6基600万KW!)はロシアに占拠され、冷温停止状態であるが、戦地なので予断をゆるさない状況であると。

国家、国際機関、電力会社等の「権力側」は都合の悪い真実は隠し、私たちに騙そうとします。今中さんのような研究者が、私たちに真実を伝えていただけることは、大切なことだと思います。 [Y.稲垣]



## チェル救主催「ウクライナの子ども達の絵画展」開催のお知らせ

期間:2024年9月10日(火)～9月23日(月・祝) 10:00～21:00

場所:セントラルパーク地下街「セントラルギャラリー」(名古屋市営地下鉄「久屋大通駅」または「栄駅」下車)/無料

大好評だった埼玉県加須市での絵画展の様子(6/8～10)



昨年10月からスタートし、今も全国のさまざまな場所で開催が続いている「ウクライナの子ども達の絵画展」。チェル救も1年ぶりに2度目の絵画展を開催します。場所は名古屋・栄の「セントラルギャラリー」。6月にキーウの「未来」より新たに送られてきた絵画も加わり、さらに充実した展示となります。フリースペースですので、気軽にお立ち寄りいただけます。

またチェル救とは別に、「非核・平和を求める写真絵画展事務局」主催の絵画展が、8月

27日(火)～9月1日(日)、名古屋市中区「名古屋市民ギャラリー栄」で開催されます。この機会にどうぞお見逃しのないよう、お越しいただけましたら嬉しいです。

## ～各地の「ウクライナの子ども達の絵画展」のご案内～

- 7月6日(土)・7日(日) / 栃木県宇都宮市:宇都宮市文化会館第2展示室
- 7月15日(月・祝)～7月21日(日) / 名古屋市千種区:愛知淑徳大学・星ヶ丘キャンパス
- 8月27日(火)～9月1日(日) / 名古屋市中区:名古屋市民ギャラリー栄
- 9月28日(土)・29日(日) / 長野県伊那市:県伊那文化会館大ホール
- 10月26日(土) / 愛知県一宮市:尾張一宮駅前ビル 2F 大会議室

人類は社会の発展を目指して様々な技術を開発してきた。それは資本主義も社会主義も変わらない。自然は手段として利用する、という考えは一見、当然の事のように見える。しかし今、それを改めて考え直す時期に来ているのではないだろうか。地球温暖化の原因の一つは、産業革命以来利用してきた石油や石炭などに由来する炭酸ガスである。温暖化対策として原発を推進する国や産業界の目先の目標は何をもたらすのか。

## ドイツでの経験

2008年4月にドイツで行われた国際生態学会に招待された事がある。日本は世界で最も遺伝子組換えナタネ（以下GM）を輸入している（年間270万トン）。その多くはカナダから輸入する除草剤耐性のナタネ（キャノーラ）である。日々の調理に多くの日本人は何気なくキャノーラ油を使っている。その結果、日本の港の周辺には輸送中にこぼれ落ちたGMナタネが生えて野生化している。私が所属する「遺伝子操作食品を考える中部の会」は三重県四日市港周辺での調査を開始してから今年で20年になる。ドイツのブレーメン大学で行われた学会ではGM作物を栽培した場合に起こる問題点について集中的に議論が行われ、その際に日本で起きている状況を報告するように依頼されたのだった。2日目に自分の報告を終わり、3日目の最終日に行われた基調講演を紹介したい。登壇したのは社会学者F. Keil教授。彼は社会が新しい技術を取り入れるに当たって何が必要か、というテーマで講演した。最初に彼が指摘したのは、人類が新たに取り入れようとする技術について、先ず行うべきなのは「その技術について何処まで分かっている、何処から先が分からないかを精査する事」だと指摘した。要約すれば「無知の知」という。これはソクラテスの言葉だという。知と無知の境界を明らかにし無知の領域を解明するのが科学者の使命だという。更に彼は社会が新しい技術を取り入れるに当たり3点について議論すべきだと指摘した。その技術が①自然(Nature)に悪影響をもたらさないか。②人類がこれまで作ってきた社会や文化(Culture)を破壊しないか。③自然と人類の未来(Future)にどんな影響があるか。この3点について社会的に議論し結論すべきだと締めくくった。

Nature・Culture・Futureは英語のごろ合わせだが、社会が新たな技術を採用するにあたって必要な事の端的な表現である。はたして我々はこれまでそうした

認識で社会を作ってきただろうか。

## ドイツの原発政策

2011年3月に起こった福島第一原発事故はチェルノブイリに次ぐ大事故で世界に大きな反響をもたらした。ドイツでは当時のメルケル首相が「倫理委員会」を設置し、40年を過ぎた老朽原発の運転延長を認めるかどうかが議題になった。東ドイツ出身の物理学者だったメルケル首相自身は運転延長の賛成派だったが倫理委員会の「運転延長禁止」の結論に従い老朽原発の運転延長禁止法案を採択した。こうしてドイツは2023年4月、全ての原発の運転を停止し脱原発の道に舵を切った。

## 日本の未来は危うい

それに引き換え日本はどうか。福島原発事故はNature（自然）を汚染し、Culture（地域社会と文化）を壊し、Future（地域の未来）を破壊した。

にも拘らず政府と産業界、科学者達は温暖化対策と称して、老朽原発の再稼働や新たな小型原発の開発に舵を切った。高レベル放射性廃棄物処分場の調査も始まった。すべてはその場しのぎの金目当ての政策である。「中間貯蔵施設」という名前が全てを象徴している。事故対策も放射性廃棄物対策も、トリチウム汚染水海洋排出も、どれ一つとして解決の目途は立っていない。日本政府と産業界・学会は「今だけ、金だけ、自分だけ」の社会を目指している。原発に加えて「命を金にする」ゲノム編集技術も新たな経済成長の手段と主張する。「企業栄えて国滅ぼす」この国の政策に我々はどう対処すべきか、改めて問われている。自然と社会と未来の安全の為に。

(2024年7月5日 河田)

## 2023年度 活動計算書

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部  
(特定非営利活動に係る事業会計)

(単位:円)

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

科目	金額	金額	金額
<b>【経常収益】</b>			
1. 受取会費	正会員受取会費 賛助会員受取会費	96,000 404,000	500,000
2. 受取寄付金	ミルク支援 チェルノブイリ支援 福島原発被災支援 一般寄付 ウクライナ救援基金 能登支援	277,000 157,500 110,000 3,289,041 3,071,215 742,000	7,646,756
3. 受取助成金		0	0
4. 事業収益	福島支援事業 イベント関連事業	19,200 0	19,200
5. その他の収益	雑収入 受取利息 為替差益	19,800 90 8,416	28,306
経常収益 計			8,194,262
<b>【経常費用】</b>			
1. 事業費			
(1) 人件費	給料手当・日当 人件費計	0 0	
(2) その他経費	業務委託費 支援金 印刷製本費 諸謝金 旅費交通費 通信費 荷造運搬 消耗品費 賃借料 諸会費 支払手数料 雑費 その他経費計	783,190 8,320,000 208,870 22,274 97,746 75,266 989,966 174,934 23,000 10,000 105,530 9,240 10,820,016	10,820,016
事業費 計			10,820,016
2. 管理費			
(1) 人件費	給料手当 法定福利費 人件費計	1,712,470 5,683 1,718,153	
(2) その他経費	通信費 荷造運賃 水道光熱費 旅費交通費 会議費 消耗品費 印刷製本費 地代家賃 保険料 租税公課 諸会費 支払手数料 雑費 為替差損 その他経費計	154,609 0 97,248 130,510 0 336,223 19,954 792,000 17,730 600 54,000 83,623 0 0 1,686,497	3,404,650
管理費 計			3,404,650
経常費用 計			14,224,666
当期正味財産増減額			△ 6,030,404
前期繰越正味財産額			14,174,755
次期繰越正味財産額			8,144,351

※定款(事業)第5条に基づく「その他の事業」は実施していません。

2023年度 財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)による。

- (1) 棚卸資産の評価基準は原価基準、評価方法は最終仕入原価法による。
- (2) 有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (3) 消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	医療 機関 支援 事業	被災 者 団体 支援 事業	粉 ミ ル ク 支 援 事 業	ク リ ス マ ス カ ー ド 事 業	業 務 委 託 事 業	通 信 誌 発 行 事 業	イ ベ ン ト 関 連 事 業	福 島 原 発 被 災 支 援 事 業	啓 発 事 業	ウ ク ラ イ ナ 救 援 事 業	能 登 支 援 事 業	事 業 部 門 計 (A)	管 理 部 門 (B)	合 計 (A+B)
<b>【経常収益】</b>														
受取会費												0	500,000	500,000
受取寄付金 (指定寄付)	78,750	78,750	277,000					110,000		3,071,215	742,000	4,357,715		4,357,715
受取寄付金 (指定なし按分)	282,858	282,858		82,227	342,060	236,810	23,023	374,950				1,624,786	1,664,255	3,289,041
受取助成金												0		0
事業収益								19,200				19,200		19,200
その他の収益										64		64	28,242	28,306
経常収益 計	361,608	361,608	277,000	82,227	342,060	236,810	23,023	504,150		3,071,279	742,000	6,001,765	2,192,497	8,194,262
<b>【経常費用】</b>														
(1) 人件費												0		0
給料手当・日当												0	1,712,470	1,712,470
法定福利費												0	5,683	5,683
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,718,153	1,718,153
(2) その他経費					783,190							783,190		783,190
業務委託費								800,000		5,820,000		8,320,000		8,320,000
支援金	600,000	600,000	500,000									208,870	19,954	228,824
印刷製本費				5,450		197,570				5,850				0
会議費												0		0
諸謝金										22,274		22,274		22,274
旅費交通費								90,746		7,000		97,746	130,510	228,256
通信費				276		69,281		490		5,219		75,266	154,609	229,875
荷造運搬費				139,742		245,967			1,271	602,986		989,966		989,966
消耗品費				30,193						144,741		174,934	336,223	511,157
地代家賃												0	792,000	792,000
水道光熱費												0	97,248	97,248
貸借料				10,200						12,800		23,000		23,000
売上原価												0		0
保険料												0	17,730	17,730
租税公課												0	600	600
諸会費								10,000				10,000	54,000	64,000
支払手数料	10,868	1,305	5,280	110	19,000	440		2,766		58,161	7,600	105,530	83,623	189,153
雑費									9,240			9,240		9,240
為替差損														0
その他経費計	610,868	601,305	505,280	185,971	802,190	513,258	0	904,002	10,511	6,679,031	7,600	10,820,016	1,686,497	12,506,513
経常費用計	610,868	601,305	505,280	185,971	802,190	513,258	0	904,002	10,511	6,679,031	7,600	10,820,016	3,404,650	14,224,666
当期経常収支差額	-249,260	-239,697	-228,280	-103,744	-460,130	-276,448	23,023	-399,852	-10,511	-3,607,752	734,400	-4,818,251	-1,212,153	-6,030,404

3. 使途等が制約された寄付金等の内訳

使途等が制約された寄付金等の内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は8,144,351円ですが、そのうち6,879,026円は下記のように使途が特定されています。したがって、使途が制約されていない正味財産は1,265,325円、当期正味財産増減額は△2,936,372円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ウクライナ救援基金	9,472,703	3,071,279	6,679,031	5,864,951	軍事侵攻に対する人道支援物資購入等の資金
能登支援事業				742,000	能登支援活動を行う団体に翌期に送金
粉ミルク支援	500,355	277,000	505,280	272,075	ミルクキャンペーン支援金270,000円は翌期に送金
合計	9,973,058	3,348,279	7,184,311	6,879,026	

2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2024年 5月 15日 監査人 大谷早苗 印

### 【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆3月 寄付／会費 441,000 円
- ◆4月 寄付／会費 362,777 円
- ◆5月 寄付／会費 233,001 円
- ◆2024 年度累計（ウクライナ救援基金を除く）  
490,778 円（5 月末）
- ◆2024 年度ウクライナ救援基金 399,200 円（5 月末）
- ◆ウクライナ救援基金累計 26,384,863 円  
（2022/3/7～2024/5/31）  
※2023 年度分については、4-5p 決算報告をご覧ください。
- ◆会員数 177 名
- ◆ポレーシェ読者数 674 名  
～心温まるご支援をありがとうございました～

### 【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先  
三菱UFJ 銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆郵便振替 00880-7-108610

〈口座名義〉

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部

\* クレジットカードでも受け付けております  
(ページ下の QR コードから寄付ページへアクセス！)

※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。  
ご了承のほどお願いいたします。

◆ご報告◆ 能登半島地震支援募金をポレーシェ 2/15 発行号で募集し、これまでに 758,000 円のご寄附を頂きました。  
ありがとうございました。寄附募集は、5 月末で締め切らせていただき、石川県穴水町で直接支援活動を行っている「NPO  
法人レスキューストックヤード」に送金しお役立ていただけます。

### ★総会報告

#### 1)2024 年度通常総会

6 月 15 日(土)、なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごやにて、今年度の通常総会を開催致しました。正会員数  
41 名のうち、31 名の出席を得て総会は成立し、開催されました。(内、22 名が書面出席)

議案はどれも原案通り承認可決されました。また、2024 年度も、チェルノブイリ被災地支援に加え、戦争被害者への  
ウクライナ支援も続行し、国内においては、南相馬の子ども食堂支援を利用するひとり親家庭、生活困窮者、独居高齢者、  
障がい者の方々を南相馬市社会福祉協議会の協力を得て支援する事を報告しました。

#### 2)講演会・・・河田理事講演

##### 第一部:ウクライナの原発状況

2022 年 3 月、ロシア軍による砲撃、侵攻により占拠されたザポリージャ原発は、6 基すべてが停止。現在ロシア軍のオペ  
レーション下であり、職員の補充をロシアから行っていると事です。ロシア軍は 2024 年 3 月 22 日ウクライナ各地の電気  
網・エネルギー施設への集中攻撃を行い、5 名死亡、100 万人が電力供給を絶たれ、またウクライナ最大のダムへの度重  
なる攻撃もありました。ロシアのインフラ施設破壊が続くなか、ウクライナは西部フメリニツキー州で原子炉 4 基の建設に着  
手すると明らかにし、日本企業と協力するとの情報もあるとの事。

##### 第二部:福島トリチウム汚染水について

現在海洋放出されている福島第一原発の「処理水＝汚染水」について、★何が問題なのか？★トリチウム汚水は処理  
できる、といった 2 つの大きなテーマで講演し、「なぜこんな危険なものを急いで海に流し込もうとしているのか？」との問  
いに対する河田さんの見解が述べられました。汚染水処理方法はいくつもある！という話の後に、「31 年前に着手したもの  
の、27 回目の完成延期が確実な六ヶ所村再処理工場を稼働し、現在海洋放出している汚染水の 20 倍ものトリチウム汚染  
水を毎年海洋放出できるようにするため、また、六ヶ所のトリチウム放出管理目標値を適用すれば、現在放出している福  
島第一原発の汚染水放出は 1 か月で全量放出できるとのことで、その前哨戦として今の放出があるのでは」との驚くべき  
話。詳しくは冊子<「トリチウム汚染水の海洋放出反対！」汚染水は処理できる！>をご参照ください。

お問い合わせは、no.osensui@athena.ocn.ne.jp



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館 5B

TEL&FAX 052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 15:00)

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

